

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

1階 大地

事業所番号	1490900089	事業の開始年月日	平成19年8月1日
		指定年月日	平成19年8月1日
法人名	医療法人社団 裕正会		
事業所名	グループホーム ウェルケアSun		
所在地	(223-0058) 横浜市港北区新吉田東8-20-33		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
		通い定員 名	
		宿泊定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計 18名	
		ユニット数 2ユニット	
自己評価作成日	平成25年12月26日	評価結果 市町村受理日	平成26年2月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ウェルケアSunの今年度目標は「利用者の声きこえます！利用者の為に同じ方向を向き出来る！につながる寄り添いの時間をつくる」です。ホームで暮らすに当たり大切なことは利用者の想いを汲み取った生活が提供できているかだと思います。私達は利用者に寄り添うことでしたいこと、してほしいこと、してほしくないことなどを把握します。言葉にだせない方でも感じ取れます。それらを会議や日常の場で話し合い利用者のニーズに合った対応を決めています。実現できそうもない事でも決して諦めず「出来る！」の信念の下実行し、時には代替え策を考える等利用者の希望に添うよう努めています。「出来る！」の一つとして山中湖へ一泊旅行に行ってきました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年1月10日	評価機関 評価決定日	平成26年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点> ◇同一法人内事業所の支援 至近距離内に医療を併設している同一法人の介護老人保健施設があり、併設する訪問看護事業所を含めた医療連携体制があり、更に、同施設から理学療法士、音楽療法士の支援もあり、利用者・家族に医療看護面で安心感を与えている。 ◇家族とのコミュニケーション 家族会を兼ねたクリスマス会や、利用者の外食行事には家族の参加も多く、利用者・家族・職員の交流の場も賑やかになっている。また、家族への月例報告時に利用者の日常生活状況と一緒に、医師往診時の医師のコメントも報告し、家族から喜ばれている</p> <p><事業所が工夫している点> ◇職員提案による利用者の安全への配慮 浴室やトイレの手すりが同色系であったため、利用者には識別が困難な場面も見られた。職員の提案で昨年来手すりに目立つ色のテープを巻くことによりはつきりと識別できるようになって、利用者のさらなる安全確保ができた。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム ウェルケアSun
ユニット名	大地

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3, 利用者の1/3くらい 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①認知症の緩和②自立支援③日常生活の充実の3点の運営基本を職員全体が常に心がけている。	・法人理念と3点の運営基本を基にして、事業所の年度目標「利用者のために寄り添う時間をつくる」を策定し、事務所に掲示して、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、大安祭り等に参加し交流に努め皆様にグループホームを知って頂けるよう努めている。運営推進会議時、町内会長様等にホームを見学して頂き、生活の場を知って頂いた。	・町内会に加入して、運動会や夏祭りに参加している。 ・小学校特別支援学級との交流や、中学生の職業体験受入れを、またクリスマス会には、マンドリンとギターのボランティアが来てくれ、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護老人保健施設ウエルケア新吉田、横浜市認知症研修等に積極的に参加し知識向上に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員に町内会長、民生委員等地域の代表の方になって頂き、2か月に1度実施している。認知症に対する話し合いも持てるようになった。	・運営推進会議は2か月毎に年6回開催している。 ・町内会長、民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員、家族が参加している。 ・運営報告の他に看取り、防災等の意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港北区福祉支援センター、地域包括センター等と連携に努め、介護保険制度利用者の個別案件等を話し合い制度の円滑運営に努めている。	・要介護更新申請代行や保護課との調整等で出かけた際に区担当者に近況を説明して、連携している。 ・市グループホーム連絡会に加入し情報交換や交換研修などに参加し活動している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の生活状況を常に把握し、安全で快適な生活を提供出来る様取り組んでいる。玄関は日中開放し拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束防止については、法人で年1回研修があり、参加者が会議で受講報告をして職員間で内容を共有している。 ・玄関は日中は施錠していない。居室は施錠しない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待の研修に参加し知識を深めている。複数の職員が業務を共有し虐待が行われない安心した生活環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度をより深く学ぶ機会を作り、必要である方を知り話し合いの場を持ち迅速に対応できる様努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に解りやすく権利義務を明示し、十分に時間をとって説明し、本人及び家族の同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者との対話を多く持つよう心掛け、話の内容により家族に相談しカンファレンスを行い状況によって改善に努めている。	・家族の来訪時や年2回の家族会で意見や要望を聞いている。要望では、遠出の希望があり、去年は山中湖行が実現でき、その他家族との誕生会に職員の付添い支援の依頼があり、できる範囲で対応する等要望に応えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞き必要に応じて話し合いをし、月に1回ユニット会議を行い意見交換をし改善に努めている。	・毎月のユニット会議で意見交換し運営に反映している。 ・出された意見お具体例として、洗濯室が使い勝手が悪い、との意見が出て、家具等の置き方を工夫して改善されたケースもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より良い環境・整備を目指し利用者様を取り巻く環境に合わせて職員と話し合いその都度勤務の調整等を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修や、外部の研修に参加する機会を増やしスキルアップを図る努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に所属し勉強会や懇親会に参加し日頃の業務等について意見交換している。グループホームとの交換研修も行いネットワーク作りに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉でのコミュニケーションだけでなく、スキンシップその他出来るだけ関わって訴えや想いを聞いて新しい場面に慣れて頂けるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所面接時、家族の不安や疑問に答え、本人と家族の思いに沿った援助を共に考えホームで出来ることは何かを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明を行い、利用者様と家族の要望に沿っているかの話し合いを持っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るお手伝いは積極的にして頂き、生きがいや、居場所が見つけれられるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の知らない利用者のホームでの暮らしをお伝えしながら、一緒に外出して頂いたり談話をして頂けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のこれまでの生活の様子を伺いながら、大切な人と会える様又、訪ねて行ける様にスタッフ同士情報を共有しながら維持できる様努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・友人の来訪時にはお茶でもてなし、歓迎している。 ・利用者の接点を多くするために、贈り物が届くと、利用者が電話で本人にお礼を言い、馴染みの美容院や銭湯へ職員と一緒に出かけている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しない様に又一方的に避難の対象となる事のない様職員は間に入って邪魔にならない程度に支援する様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを行った利用者様の家族より、今後もお付き合いしていきたいとの申し出があった。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの方の希望・意向の把握に努め、外出・外食・買い物等も取り入れて楽しく生活して頂けるよう努めている。	・日頃の生活の中で思いや意向を汲み取るように努めている。 ・把握が困難な場合は、生活歴を参考にして寄り添い、表情や仕草を見て、また家族にも聞いて検討している。”	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から収集した情報のファイルを見たり、ご本人様からこれまでどの様に生活されてきたかを把握し、ホームでの生活に活かせる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に今現在のADLに配慮しその心身の状態を各スタッフの関わり、バイタル測定他で注意深く観察する事に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向も盛り込み、ユニット会議でアセスメントを行い、ご本人に合ったケアプランを立てている。状態変化時は速やかにカンファレンスを行い医師に相談等実施している。	・毎月のカンファレンスで居室担当者を中心に介護計画の達成度などについて意見交換し、家族の希望や医療情報も入れて介護計画を作成する。 ・計画は3～6か月毎に、変化時はその都度、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者と接し職員間で気づき、情報を共有しながら日々介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活が御本人にとって楽しく過ごせる様家族の協力を得ながら対応し、充実した日常が過ごせる様介護援助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会に依頼しボランティアに来て頂いている。理容や買い物等近隣施設に職員と共に出かけている。訪問マッサージを受けている方もいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の在宅総合診療を実施し診察状況を記録に残し医師の指示に従いケアを実施している。又、急変時も契約クリニックは同一法人であり迅速な対応が取れる環境にある。	・全員が協力医（内科）の月2回の往診を受け、歯科は週1～2回診療と口腔ケアに、訪問看護師、マッサージは毎週来訪している。 ・その他の医療機関へは家族が付き添って受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問時、利用者の情報、気づき、健康状態等報告し適切な指導を受けている。その他便秘等様々な相談をし指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状により契約医療機関医師の判断の下、適切な協力医療機関で治療入院が出来る。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応にかかわる指針」を定め入所時に説明・同意を得ている。本人本位での話し合いを関係者と持ち、共通したケアの考えのもと連携をとり支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化の対応指針を入居時に説明し、同意を得ている。 ・状況により本人・家族と話し合いを重ね、希望があれば看取りを同意書を受けて実施する。24年度に関係者が連携、協力し看取りを1件実施した。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム連携マニュアルの「利用者の急変時対応」に基づき、状態に即した対応を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアル、震災発生時行動指針が定められており、災害時に対応できるようになっている。年2回の夜間想定避難訓練を実施し利用者の安全確認を日々心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回避難訓練を夜間想定で実施し、うち1回は消防署が立会っている。 ・訓練時に近隣の方々にも呼びかけているが、協力に至っていない。 ・非常用食料・水を3日分と備品類を備蓄している。 	災害対策では近隣住民の参加、協力が重要です。日常的に近所の方々と、行き来できる関係が、いざという時に役立ちます。災害時対策に理解を求め、協力体制を築いていくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重して、各人に合わせた言葉かけを実施している。トイレ時等プライバシーを守るよう言葉を選び特に気を付けて対応している。名前は苗字にさんを付けて呼んでいる。	.言葉遣いや接遇、プライバシーについてはマニュアルに沿って研修を行い、気になる場合は、都度注意している。 ・トイレ誘導する時はさりげなく声かけをし、利用者の羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様から願いや訴えを聞き出せるよう対応し、安心・満足できる対応を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の様子や雰囲気を感じ取り、日々楽しく過ごせる様に心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時は職員と共に服を選び、行事の時等はメイクや服装等おしゃれをして頂いている。ご自分で化粧されている方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事形態やスピード等考慮しながら楽しく食事が出来る様支援している。専用の器の提供も実施している。利用者様の体調等様子を見て片づけ等お手伝いをして頂いている。	・食事の準備や後片付けを、できる利用者は楽しみながら手伝っている。 ・食事は職員も利用者と一緒に、楽しい話題を提供しながら雰囲気づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好等工夫しながら確保できる様に支援をしている。提供に際し、時間をずらす等利用者の状態に合わせることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせて介助を行い、適切な口腔ケアが出来る様に心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し個々の排泄パターンを把握し職員間で話し合いながら対応している。下剤服用時は清潔保持の為オムツを装着しつつトイレ誘導する事もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の排泄一覧表を作り、パターンを把握して声かけし、トイレ誘導している。 ・パターン外のときでも、職員間で利用者のしぐさなどを気にかけて誘導を試みている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促し散歩や体操等、身体を動かす様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの生活パターンを把握し、排便状態も考えながら支援をしている。拒否のある方は、職員を変えるなどして入浴して頂けるよう対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・通常は週に2回入浴しているが希望があれば毎日でも入れる。 ・入浴個別対応方法を作成して、利用者毎の注意事項を定め、入浴介助する職員の参考にしてしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間共に本人の希望や状態に合わせて午睡等休息をとって頂けるよう努めている。散歩やリハビリ等日中の活動性を高め、夜間良眠して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明があり情報を見る事が出来る。何かの症状がある時は説明書を見て副作用ではないか調べるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の資料を見てその人らしく生活できる様努め、洗濯物や清拭たたみ、食器洗い等の家事手伝いをして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と外食や買い物に出かけたりしている。気のめいった利用者様と個別対応で外出する事もままある。家族と職員一緒に外食に出かけ家族様に喜んでいただけた。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は近くの公園に散歩に、車イスの方も出かけている。 ・外出が困難なときは前庭で日光浴、外気浴をしている。 ・利用者と職員の念願の山中湖へ一泊旅行が実現できた。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と共に外出し買い物をした際の支払い等実施するよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームへの電話で家族と話している方がいたが、御自分からかけることはない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の色紙を共有空間に貼ったり、クリスマスや正月飾り等、季節の飾り付けも一緒に行っている。共用部は危険物を撤去しトイレは特に清潔保持に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員手作りの神輿など、季節の飾りつけがある。 ・エアコン、床暖房で室内の温度は保たれており、加湿器で湿度も調整している。 ・トイレは一日二回必ず掃除し、清潔にしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	問題が起こった時は、食事席の変更等を行い、皆様が快適に過ごせる様支援している。テレビの前にはソファを置き自由に見て頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、テレビ、化粧台、たんす等利用者様にとって好みのもの、なじみのものを置いて居室ではなく家との位置づけを実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはベッドやテレビがあり、また使いなれたダンスや鏡台、ソファなど置いている。 ・家族の写真やぬいぐるみ人形など飾られ、今までの生活の延長として工夫されている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等ない様に足元等に障害物がない様環境整備している。食事後の片付けなど出来ることはやって頂いている。		

事業所名	グループホーム ウェルケアSun
ユニット名	大 空

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①認知症の緩和②自立支援③日常生活の充実の3点の運営基本を職員全体が常に心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、大安祭り等に参加し交流に努め皆様にグループホームを知って頂けるよう努めている。運営推進会議時、町内会長様等にホームを見学して頂き、生活の場を知って頂いた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護老人保健施設ウェルケア新吉田、横浜市認知症研修等に積極的に参加し知識向上に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員に町内会長、民生委員等地域の代表の方になって頂き、2か月に1度実施している。認知症に対する話し合いも持てるようになった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港北区福祉支援センター、地域包括センター等と連携に努め、介護保険制度利用者の個別案件等を話し合い制度の円滑運営に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の生活状況を常に把握し、安全で快適な生活を提供出来る様取り組んでいる。玄関は日中開放し拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待の研修に参加し知識を深めている。複数の職員が業務を共有し虐待が行われない安心した生活環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度をより深く学ぶ機会を作り、必要である方を知り話し合いの場を持ち迅速に対応できる様努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に解りやすく権利義務を明示し、十分に時間をとって説明し、本人及び家族の同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者との対話を多く持つよう心掛け、話の内容により家族に相談しカンファレンスを行い状況によって改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞き必要に応じて話し合いをし、月に1回ユニット会議を行い意見交換をし改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より良い環境・整備を目指し利用者様を取り巻く環境に合わせて職員と話し合いその都度勤務の調整等を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修や、外部の研修に参加する機会を増やしスキルアップを図る努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に所属し勉強会や懇親会に参加し日頃の業務等について意見交換している。グループホームとの交換研修も行いネットワーク作りに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉でのコミュニケーションだけでなく、スキンシップその他出来るだけ関わって訴えや想いを聞いて新しい場面に慣れて頂けるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所面接時、家族の不安や疑問に答え、本人と家族の思いに沿った援助を共に考えホームで出来ることは何かを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明を行い、利用者様と家族の要望に沿っているかの話し合いを持っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るお手伝いは積極的にして頂き、生きがいや、居場所が見つけれられるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の知らない利用者のホームでの暮らしをお伝えしながら、一緒に外出して頂いたり談話をして頂けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のこれまでの生活の様子を伺いながら、大切な人と会える様又、訪ねて行ける様にスタッフ同士情報を共有しながら維持できる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しない様に又一方的に避難の対象となる事のない様職員は間に入って邪魔にならない程度に支援する様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを行った利用者様の家族より、今後もお付き合いしていきたいとの申し出があった。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの方の希望・意向の把握に努め、外出・外食・買い物等も取り入れて楽しく生活して頂けるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から収集した情報のファイルを見たり、ご本人様からこれまでどの様に生活されてきたかを把握し、ホームでの生活に活かせる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に今現在のADLに配慮しその心身の状態を各スタッフの関わり、バイタル測定他で注意深く観察する事に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向も盛り込み、ユニット会議でアセスメントを行い、ご本人に合ったケアプランを立てている。状態変化時は速やかにカンファレンスを行い医師に相談等実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者と接し職員間で気づき、情報を共有しながら日々介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活が御本人にとって楽しく過ごせる様家族の協力を得ながら対応し、充実した日常が過ごせる様介護援助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会に依頼しボランティアに来て頂いている。理容や買い物等近隣施設に職員と共に出かけている。訪問マッサージを受けている方もいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の在宅総合診療を実施し診察状況を記録に残し医師の指示に従いケアを実施している。又、急変時も契約クリニックは同一法人であり迅速な対応が取れる環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問時、利用者の情報、気づき、健康状態等報告し適切な指導を受けている。その他便秘等様々な相談をし指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状により契約医療機関医師の判断の下、適切な協力医療機関で治療入院が出来る。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応にかかわる指針」を定め入所時に説明・同意を得ている。本人本位での話し合いを関係者と持ち、共通したケアの考えのもと連携をとり支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム連携マニュアルの「利用者の急変時対応」に基づき、状態に即した対応を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアル、震災発生時行動指針が定められており、災害時に対応できるようになっている。年2回の夜間想定避難訓練を実施し利用者の安全確認を日々心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重して、各人に合わせた言葉かけを実施している。トイレ時等プライバシーを守れるよう言葉を選び特に気を付けて対応している。名前は苗字にさんを付けて呼んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様から願いや訴えを聞き出せるよう対応し、安心・満足できる対応を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の様子や雰囲気を感じ取り、日々楽しく過ごせる様に心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時は職員と共に服を選び、行事の時等はメイクや服装等おしゃれをして頂いている。ご自分で化粧されている方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事形態やスピード等考慮しながら楽しく食事が出来る様支援している。専用の器の提供も実施している。利用者様の体調等様子を見て片づけ等お手伝いをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好等工夫しながら確保できる様に支援をしている。提供に際し、時間をずらす等利用者の状態に合わせることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせて介助を行い、適切な口腔ケアが出来る様に心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し個々の排泄パターンを把握し職員間で話し合いながら対応している。下剤服用時は清潔保持の為オムツを装着しつつトイレ誘導する事もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促し散歩や体操等、身体を動かす様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの生活パターンを把握し、排便状態も考えながら支援をしている。拒否のある方は、職員を変えるなどして入浴して頂けるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間共に本人の希望や状態に合わせて午睡等休息をとって頂けるよう努めている。散歩やリハビリ等日中の活動性を高め、夜間良眠して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明があり情報を見る事が出来る。何かの症状がある時は説明書を見て副作用ではないか調べるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の資料を見てその人らしく生活できる様努め、洗濯物や清拭たたみ、食器洗い等の家事手伝いをして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と外食や買い物に出かけたりしている。気のめいった利用者様と個別対応で外出する事もままある。家族と職員一緒に外食に出かけ家族様に喜んでいただけた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と共に外出し買い物をした際の支払い等実施するよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームへの電話で家族と話している方がいたが、御自分からかけることはない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の色紙を共有空間に貼ったり、クリスマスや正月飾り等、季節の飾り付けも一緒に行っている。共用部は危険物を撤去しトイレは特に清潔保持に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	問題が起こった時は、食事席の変更等を行い、皆様が快適に過ごせる様支援している。テレビの前にはソファを置き自由に見て頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、テレビ、化粧台、たんす等利用者様にとって好みのもの、なじみのものを置いて居室ではなく家との位置づけを実施している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等ない様に足元等に障害物がない様環境整備している。食事後の片付けなど出来ることはやって頂いている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ウェルケアSun

作成日

平成25年3月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防署立会を含めた年2回の防災訓練時、近隣住民の参加・協力が得られない。	防災訓練時に近隣住民の方に参加・協力して頂く。	地域により溶け込む為にグループホーム主催の行事に参加して頂き交流を深める。災害時グループホームで出来ることを運営推進会議で話し合い地域の役に立てることを検討する。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。